

主催校からのご挨拶

本大会の実行委員長を務めます、立命館大学の徳田昭雄と申します。当方含めまして、40代、30代の経験の浅い同僚教員による試行錯誤の大会運営となってしまっていますが、実行委員一同、チームワークを発揮して本大会の成功に向けて努める所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、11月9日（土）・10日（日）の両日、立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市）にて開催いたします第26回国際ビジネス研究学会（JAIBS）全国大会では「新価値創造に向けたオープンイノベーション：エコシステム形成と国際標準化」を統一論題に掲げました。我が国が「第5期科学技術基本計画」において掲げておりますSociety 5.0には「ICTを最大限に活用し、世界に先駆けて超スマート社会を実現していく」という方針が示されています。ICTの発展と普及を背景にした技術シーズと地球環境問題や資源制約の克服といった社会ニーズが相まって、スマート化は様々な社会インフラシステムに向けられ、スマート-X（city, energy, mobility, health, productionなど）の研究開発および社会実装が活発に進められています。そして、スマート-Xのような幅広いユーザーの要請にこたえる大規模な「システム・オブ・システムズ：SoSs」の構築には、新たなエコシステムやプラットフォームの構築に向けて既存の産業枠組みを越えた協業（オープンイノベーション）が欠かせなくなっています。しかし、IICT×OpenFogや、Industrie4.0 Platform、5G consortium、AIOTI allianceなど、グローバル・プラットフォームの構築に向けた協調と競争が加速しようとしておりますが、日本企業はすっかり蚊帳の外といった様相です。

このような状況の中、統一論題セッションでは、超スマート社会の実現に向けて日本の科学技術政策や国際標準化政策はいかにあるべきか、企業は他機関と連携しながらエコシステムをいかにデザインしていくべきかについて議論を深めていただければと思います。また、2日目は統一論題に限定されない多様な自由論題報告ならびに国際交流フォーラムを予定しております。

皆さま万障お繰り合わせのうえ、奮ってご参加頂けますようお願い申し上げます。

2019年9月

実行委員長 徳田昭雄（立命館大学）
副実行委員長 守 政毅（立命館大学）
実行委員 高梨千賀子（立命館アジア太平洋大学）
寺崎新一郎（立命館大学）、劉慶紅（立命館大学）